

市長「おしゃべり」 しませんか

5月20日の「市長と「おしゃべり」しませんか」は、発寒清掃工場で行われました。市長は新琴似緑小学校の4年生と一緒に発寒清掃工場の見学会「清掃学級」に参加し、ごみを集める「ごみピット」や焼却炉などを見学。その後、ごみを減らすための工夫やリサイクルなどについて、工場長や職員にアドバイスをもらいながら話し合いをしました。

詳細 市民の声を聞く課 ☎211-2042



みんなで協力して、 札幌のごみを減らそう！

「リサイクル」で ごみを減らそう

市長ごみを減らすために、いいアイデアはあるかな？
矢後 暁さん 食べ物を残さない。

市長 そうだね。皆さんは家の中で食べ物のごみを発酵させて肥料にするという方法を知っていますか？

子供たち 知っています。市長生ごみを肥料に変えて、それを畑にまくとおいしい野菜が育ちます。その野菜の食べきれなかった部分をまた肥料にして畑にまく。これが「リサイクル」です。どう、みんな、やってみる気になった？

子供たち 知ったー！

札幌市の家庭から排出されるごみの量は1年間で約49万トン。これは札幌ドームをマスにして例えると約3杯分です。1人が1日当たり排出するごみの量は平成13年度は717グラム、平成14年度は725グラムです。



清掃工場の仕事は 24時間体制！

坂田 聖名さん 清掃工場では一番大変な仕事は何ですか？
工場長・越村さん 一番大変なのは、二十四時間工場を動かしていることです。ごみを燃やす焼却炉を連続運転できるように職員は頑張っています。

市長 みんなが寝ている間にも働いているんだね。



「ごみを減らすのは みんなの小さな工夫から

大森 圭介さん 一日でどのくらいのごみが出ますか？
職員・石田さん 札幌市全体で、千八百から千九百トン、ごみ収集車約六百三十台分です。
岩井 美夢さん ごみを減らすためにどんな工夫ができますか？

市長 例えば、買い物には自分で袋を持って行く。包装紙や袋をもらわなくて済みますね。みんなが一日に二十ヶ、約空き缶一個分ごみを減らすだけで、ごみ処理のお金が年間で約五億円も節約できるんだよ。少しづつでもいいから頑張ってみましょう。

みんなが寝ている間にも働いているんだね。



重さで比べると、家庭から出るごみのうち、一番多いのは生ごみで、40%近くを占めています。食べ残しを減らしたり、家庭で処理したり、少しでもごみを減らせるように頑張りましょう。